

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590200253		
法人名	社会福祉法人 神原苑		
事業所名	神原苑 東新川グループホーム		
所在地	山口県宇部市東新川町6番10号		
自己評価作成日	平成30年3月27日	評価結果市町受理日	平成30年8月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年 4月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が楽しく穏やかな生活が送れるように日々取り組んでいます。新しいボランティアに来苑して頂くなど年々新しい事を取り入れるようにしています。特別養護老人ホームでの行事や、隣接の小規模多機能型との合同行事に参加することで利用者同士の交流がもてるようにもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者は自治会の清掃活動や校区行事のひな祭り、文化祭、運動会その他、地域の高齢者が集まれる「いきいきサロン」に参加されています。フラダンスやコーラス、手遊び・腹話術等のボランティアの来訪時には、いきいきサロンを利用している高齢者に声をかけられ、利用者と一緒に楽しんでおられます。事業所では行事などを掲載したチラシを毎月、各方面に配布されて、クリスマス会や餅つき、拠点事業所合同で開催する文化祭や避難訓練等に地域の人の参加や協力を得られて、利用者との交流を深めておられます。利用者の生活歴などから、歌の好きな人、脳トレが好きな人、縫い物が得意な人など、一人ひとりが好きなこと、できることを把握され、楽しみごとや活躍の場をつくっておられます。事業所では、九つのかかり業務などで職員の意見を反映しやすい仕組みをつくられ、職員が気軽に意見を言い相談しやすい雰囲気をつくられて、働きやすい職場づくりを目指しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ室前の掲示板に理念を掲示している。毎月各1回ずつ開催される、職員会議やユニット会議において、理念への理解を深める機会を設けている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、月1回の職員会議や各ユニット会議で理念の読み合わせをして確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の運動会や地域のお祭りといった季節ごとの行事に参加している。また、住民票が施設にある利用者は自治会に加入し、地域の清掃にも参加している。 施設のお餅つき等の行事では、地域のボランティアに参加してもらい、交流の場を設けている。	自治会に加入し、年2回、地域の清掃活動に職員と利用者が参加している。地域のひな祭りには利用者がつくったひな人形やお雛様の顔抜きパネルを展示し、文化祭の見学や運動会に利用者は職員と一緒に参加している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の文化祭には、地域の人100人余の参加があり、利用者は馴染みの人と交流している。事業所は、地域の高齢者が参加する法人のいきいきサロンの運営に協力し、利用者も参加している。ボランティア（三味線、大正琴、カラオケ、フラダンス、コーラス、手遊びなど）の来訪時には、サロンに参加している地域の高齢者に声かけをして、利用者も一緒に楽しんでいる。事業所の紹介を掲載したチラシを毎月作成し、近所やふれあいセンター等に配布して地域に周知し、事業所のクリスマス会や餅つき、避難訓練に地域の方の参加協力を得ている。利用者は散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、声かけがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象とした認知症の研修会を小規模多機能型事業所と実施し、それに伴う準備や受け入れをおこなった。また同じく小規模多機能型事業所と合同で開催する文化祭では見学・相談担当を配置し対応した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の内容は、事業所内の職員会議において管理者より職員に徹底している。今後も職員で意見を出し合い検討することで、より良い方向に改善できるよう取り組んでいく。	管理者が評価の意義について説明し、全職員に評価をするための書類を配布し、各職員に書けるところを記入してもらい、管理者と計画作成担当者が検討してまとめている。前回の外部評価結果は運営推進会議や職員会議で報告し、応急手当や初期対応の訓練の実施について目標達成計画を立てて、職員会議の機会を活用して年3回、ミニ研修として実施しているなど、できるところから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能型事業所と合同で2ヶ月に1回実施している。内容としては、現在の状況やサービス内容、事故・ヒヤリハットの報告等をおこなっている。意見や助言を頂き、サービス向上に活かせるように努めている。ご家族にも参加して頂けるよう、毎月のお手紙にて日時をお伝えしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、会議は2カ月に1回開催し、事業所の現状や利用者の現状、サービス内容、事故・ヒヤリハット、防災・避難訓練、外部評価結果などの報告を行い、情報交換をしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当部署や生活支援課、地域包括支援センター等と連絡・連携を図り、助言・意見を頂いている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向くなどして相談し助言を得たり、情報を交換しているなど、協力関係を築いている。法人が行っているいきいきサロンに市の協力を得ている他、認知症研修会を通してふれあいセンターと連携している。地域包括支援センター職員とは、電話や直接出向くなどして、情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、それに準じて取り組み・対応をしている。玄関の鍵は閉めない、スピーチロックとなるような声かけをしない等実践している。また、事業所内の職員研修において、身体拘束をテーマに勉強会を実施している。	身体拘束マニュアルに沿って話し合い、移動制限のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしているが、外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについて気になるのであれば、管理者が指導したり職員同士で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の職員研修において、虐待防止をテーマにした勉強会を実施している。また、利用者の表情、様子、身体等を確認し、職員同士でも声かけをおこない、未然に防止するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用している(していた)入居者もおられる為、制度を活用できるよう支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書にて詳しい説明をおこなっている。改定の際は説明をおこない、同意書を頂いている。解約については、契約時に説明し、解約時にも再度説明をおこなうことで、ご理解頂けるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付マニュアルを作成している。苦情・相談の意見箱を設置し、窓口を設けている。苦情があった際には、有識者を含めた高齢者在宅サービス要望・苦情処理委員会を開催し、解決に向けて取り組む体制がある。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に本人や家族に説明している。面会時や文化祭などの行事参加時、電話等で、家族の意見や要望を聞いている。月1回、家族にサービス提供報告書を送付して本人の様子を伝え、家族が意見や要望を出しやすいように工夫している。ケアに関する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議や事業所内の職員会議において、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、会議以外でも相談しやすい環境を整え、職員同士の関係性の構築に努めている。	月1回の職員会議や月1回のユニット会議、係り業務(おやつ、計画作成、食事、散髪、広報、研修、車手配、オムツ発注、いきいきサロン)の中で、職員の意見や提案を聞いている。管理者は職員が気軽に意見を言いやすく、働きやすい職場づくりを目指している。職員の意見から車の確保(拠点事業所から借り受け)をするなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より高度な介護技術や知識を習得するための研修への参加支援をおこなっている。また、資格を取得するための研修受講支援体制がある。やりがい、向上心をもって働ける職場づくりを心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いたり、職員が講師を務めたりし、毎月事業所内で研修を実施している。また、隔月で法人内の研修にも参加している。外部研修にも参加し、その際には事業所内の職員会議において研修内容を報告する機会を設けている。	職員に外部研修の情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年の実践者研修に2名が参加している。受講後は内部研修で復伝し、資料を回覧している。法人研修は、年6回実施し、事業所から「緊急時の対応」に1名が参加し復伝している。内部研修は、年11回、事故防止、食中毒、ストレスマネジメント、接遇などを実施している。職員会議の機会に年3回応急手当や初期対応についてミニ研修を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所に電話や訪問をおこない、相談・情報交換をおこなうことで、連携を図っている。また、他事業所に向けた広報を毎月作成・配布することで、施設の情報提供やニーズの把握をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後、面談をおこなっている。ご本人から不安なことや希望等をお伺いし、会話を通じて信頼関係の構築をおこない、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談・契約時にできるだけ長く時間をとり、心配事・気になること等をゆっくりとお伺いし、ご家族に安心・納得して頂けるように努めている。心配事があれば電話等でお話をして安心して頂けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスがその方にとって適切を思われる際には、他のサービスの説明もおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を一緒に楽しむという思いをもって関わりを持っている。利用者ができることに目を向け、共に支えあう関係づくりができるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	『サービス提供報告書』を毎月送付し、ご家族と情報を共有できるよう努めている。ご家族に状況を理解して頂いた上で、共に支えていく関係を築けるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会を随時受け入れている。外出も自由にして頂けるよう支援し、利用者によっては毎週ご家族と外出されている。	家族の面会や親戚の人、知人(行きつけだった風呂屋のおかみさん)などの来訪がある他、家族からの定期的な電話などの交流を支援している。家族の協力を得て、子供のころ住んでいた所へのドライブ、温泉、墓参り、葬式への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションは、全員に声かけをおこない参加して頂くようにする等、利用者同士でコミュニケーションをとる場を提供できるようにしている。また、仲の良い利用者同士で脳トレや作業をおこなえるような場面を提供している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報を申し送り、その方の暮らしが継続できるよう支援している。また、面会やお見舞いを通して経過を把握し、必要に応じて相談・援助をおこなうよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族からの聞き取りで、趣味や希望を把握するよう努めている。困難な場合でも、態度や表情から、その時々で利用者ひとりひとりの思いを把握するよう心がけている。記録にはご本人の言葉をそのまま残すことで、全職員で利用者の思いを把握できるよう努めている。	入居時の基本情報」を活用している他、日々の関わりの中での本人の表情や言葉をケース記録にそのまま記録し、申し送りで職員間で話し合い利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人からお話を伺い、理解するよう努めている。日常生活の会話の中でも、利用者から自然とご自分の話しをして頂けるような雰囲気づくりと関係づくりに努めている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況・過ごし方等を毎日記録し、その記録や申し送りを通じて全ての職員が把握できるようにしている。また、ユニット会議において情報の共有を図るようにしている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からご要望を聞き取り、思いを把握するよう努めている。職員全員で検討し、介護支援専門員・看護職員・計画作成担当者を中心に作成している。	本人や家族の意向を踏まえ、主治医や看護師の意見を参考にして、管理者と計画作成担当者が中心となってユニット毎に開催している月1回のカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。ケース記録を基に利用者を担当している職員が月1回モニタリングを実施し、6カ月毎に見直しをしている他、利用者の状態に変化があれば、その都度、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに記録をすることで、職員間で情報の共有ができるようにしている。各ユニット会議や事業所内の職員会議で更に情報共有ができるような体制づくりをしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方な利用者もおられ、銀行への同行等希望に応じて外出の援助をおこなっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方に運営推進会議に参加して頂き、地域資源の把握に努めている。また、地域の行事に参加・ボランティアの受け入れ等で地域の方と交流する機会を増やすように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご本人の希望に応じたかかりつけ医への受診介助をおこなっている。事業所の看護師が健康・服薬管理をおこない、状態に変化があれば看護師を中心として主治医と連携をとり、適切な医療を受けられるようにしている。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診や他科の受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。歯科は、必要に応じて往診を受けている。受診結果は、電話や面会時に家族に伝え、「ケース記録」や「日誌」、申し送りで職員間で共有している。事業所の看護師が健康管理を行い、かかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として配置しており、利用者の不調時等は随時看護師に報告している。看護師が初見し、主治医の指示を仰ぐ体制づくりをおこなっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報の提供をおこなっている。お見舞いをおこない、入院中も利用者の状態を把握するよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族のご意向を伺い、主治医とも情報共有をおこないながら、その方に一番望ましい支援ができるよう努めている。	契約時に事業所でできる対応について、移設も含めて本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から管理者や看護師、利用者を担当している職員が家族の意向を聞き、主治医や事業所等関係者と話し合って方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故があった場合、ヒヤリハット報告書・事故報告書を作成し職員全体で情報を共有することで、再度の発生防止に努めている。また、事故検討委員会にて、他部署から意見をもらっている。事業所内の職員研修にて、看護師より定期的に応急手当等の指導を受け、職員全員に実践力が身につくことを目指している。	事例が生じた場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書に状態と対応、原因、今後の対応を記録して、全職員に回覧すると共に、法人の「事故報告検討委員会」に提出して意見をj得て、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。法人研修の「緊急時の対応」に1名が参加し、内部研修で年1回、事故防止について学んでいる他、応急手当や初期対応についてのミニ研修を年3回開催しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力をつけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力をつけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防災管理者として、防災・避難訓練を年2回実施し、地域の方にも参加をお願いした。自治会長、近所の方、運営推進委員等に参加して頂き、その都度参加して頂くことで、地域との関係構築にもなっている。	年2回、拠点事業所が合同で点検業者の協力を得て、消火・通報・避難訓練、避難経路の確認を利用者や地域の人3名も参加して実施している。運営推進会議で報告し、チラシを配って地域の人の参加を呼び掛けているが、災害時の地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員の接し方で利用者の反応も変わってくることを心に留め、丁寧な声かけを心がけている。排泄・入浴時には特にプライバシーの保護に努めている。一人ひとりに合った声かけをおこない、会話を通した信頼関係の構築に努めている。個人情報の保護にも留意している。	接遇研修で学び、職員は理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から多くの会話をすることで、利用者が希望を話しやすい状態をつくるよう意識している。希望を聞き、自己決定ができるような介助を心がけている。意思表示が難しい利用者でも、表情等からニーズをくみとれるよう心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっているが、起床時間や入浴時間等、できる範囲で利用者の希望に添えるよう対応している。また、希望を伺うよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、声かけや介助にて洗顔や整髪をおこなっている。季節や気温にあった服装ができるようさりげない声かけを心がけている。ご家族が遠方の場合には、利用者の好みや季節にあった洋服を代わりに購入する支援もおこなっている。毎月出張散髪に来苑してもらい散髪を実施、美容師のボランティアの方に年2回入ってもらいおしゃれを楽しんでもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理センターでおこなうが、炊飯や盛り付けは事業所でおこない、準備から片づけまで、できる範囲で利用者到手伝してもらっている。メニューに関しては、好き嫌いに可能な範囲で対応し、咀嚼状態等に合わせた食事形態で提供しよう心がけている。利用者の希望に沿ったメニューで、定期的におやつ・食事レクリエーションを実施することで、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。また、外食もおこなっている。	副食は3食とも法人の配食を利用し、炊飯と朝の汁物は事業所でつくっている。利用者は、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にしている。月1回のおやつレク(ぼたもち、いちご大福、ホットケーキ、焼き芋、キャラメルラスク、チーズパンなど)や誕生日のケーキトッピング、年9回の昼食レク(宅配寿司、お好み焼き、ざるそば、豚汁など)、季節の行事食(おせち料理、節分の豆ごはん、そうめん、餅つき、雑煮、など)、外食(初詣後、紅葉狩り、バラ園見物、冷やし中華など)、個別の外食、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって管理された食事を提供し、食事量・水分量を記録に残している。足りない場合には補えるよう支援している。嚥下状態や体重の増減等を確認し、その方にあった食事形態で提供できるよう努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に口腔体操をおこなっている。毎食後口腔ケア実施の声かけをおこない、できない利用者には介助をおこなっている。歯磨き粉・歯ブラシの購入や、歯ブラシの交換といった支援もおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意がない利用者には、トイレ誘導を実施し、トイレでの排泄を支援している。また、必要に応じて、リハビリパンツやパットを使用し、失敗した際の不快感や羞恥心が減るような支援を心がけている。	排泄表を活用して排泄パターンを把握し、利用者に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し、排便状況の把握をおこなっている。おやつに乳製品をとり入れる、水分摂取量を確保する、体操をおこなう等、便秘にならないよう意識した援助をしている。便秘がある利用者には主治医に相談し、緩下剤を使用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の人数の関係もあり、安全に入浴を実施するには時間を限定せざるを得ないこともあるが、可能な限り、希望に沿った時間に入浴して頂けるように心がけている。湯の温度や入浴剤にも気を配り、気持ちよく入浴できるよう支援している。	入浴は、日曜日を除く毎日、10時から11時30分までと14時から15時までの間可能で、好みの湯加減で、入浴剤の使用や季節の柚子湯などでゆっくり入浴出来るように支援している。入浴したくない人には無理強いせず、順番を変えたり言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や足浴、清拭など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、利用者の希望に沿って休息が取れるよう支援している。毛布や枕等、必要に応じて自宅から持参して頂くこともできる。室温や明かりを調整し、気持ちよく眠って頂けるよう支援している。週一回シーツ交換をおこなっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所内の看護師が内服薬の内容を確認し、配薬をおこなっている。服薬時に、もう一度名前と時間を確認することで、ダブルチェックをおこなっている。服薬のチェック表を使用し、服薬の確認をしている。ユニット毎にお薬情報のファイルを作成し、職員全員が薬について知ることのできる環境を整えている。状態が変わった場合には、管理者と看護師に報告、随時主治医に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなことや得意なことを把握できるよう努めている。その情報を得た上で、ひとりひとりに合った脳トレや家事を提供している。日々の生活に役割をもって頂けるよう支援している。	クリスマス会、餅つき、文化祭、ボランティア（三味線、大正琴、カラオケ、フラダンス、コーラス、手遊び、腹話術、美容院）の来訪、新聞を読む、テレビやDVD視聴、習字、ぬり絵、ちぎり絵、貼り絵、縫い物（雑巾縫い、ほつれ修理など）との交流、ひな人形づくり、写経、お手玉、カルタ、トランプ、福笑い、歌を歌う、カラオケ、ラジオ体操、音楽体操、リハビリ体操、脳トレ、計算ドリル、黒ひげの危機一髪、わんわんガオガオ、風船バレー、居室や共用部分の掃除、布団をたたむ、布団や枕のカバー交換、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備や片付け、おやつやお茶配り、草取り、自治会の清掃活動など、本人のできることや好きなことを活かして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数や配車の関係で希望に沿えない部分も多々あるが、お散歩や徒歩圏内での買い物の希望があれば随時対応している。家族へ声をかけ、外出の機会をつくって頂くよう呼びかけをおこなっている。地域のお祭りや道普請に参加し、地域との交流の機会をつくっている。	近隣への散歩や買物、初詣、夏祭り、神原苑祭り、季節の花見（桜、バラ、紅葉）、ドライブ（空港、常盤公園、中津瀬神社、南方八幡宮、東行庵）、自治会清掃活動、校区のひな祭りや文化祭、運動会、法人のいきいきサロン、個別の夕食、家族の協力を得ての花見や温泉入浴、子供のころに住んでいた所へのドライブ、墓参り、葬式への参加、夕食、美容院利用など、一人ひとりの希望に応じて、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所にて管理者が管理しているが、ご本人や家族の希望があれば、ご自分で持って頂ける体制をつくっている。お買い物の希望や衣類購入の希望等があれば、一緒にでかけたり職員が代わりに購入してきたりと柔軟に対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から電話があれば、ご本人に引き継いでいる。また、利用者からご家族等に電話したいという希望があれば、その旨をご家族にお伝えしている。毎週決まった時間にお電話を頂くご家族もおられ、利用者も喜ばれている。手紙や年賀状を書く支援もおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ冷暖房を使用し、室温調整をおこなっている。利用者と職員と一緒に作成した季節ごとの作品をリビングに飾り、季節を感じられるようにしている。廊下に利用者の塗り絵等の作品を展示することで、親しみやすい雰囲気となるよう工夫している。時々であるが生花を飾り季節を感じてもらえるようにもしている。	玄関に節句飾りを飾り、入り口を入ると、キッチンとリビング兼食堂が一体となった広いスペースとなっており、窓から明るい自然光が入っている。食卓テーブルや椅子、テレビやソファを利用者がゆったりとくつろげるように配置している。壁面には職員手づくりの大きなカレンダーを貼り、季節の手づくり作品(はり絵)を飾っている。温度や湿度、換気、清潔に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置し、イスやソファで過ごして頂けるようにしている。仲の良い利用者同士を近くの席にすることで、楽しく過ごして頂けるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていたタンスや小物を持ち込まれている方も多。居室の壁には掲示スペースもあり、ご家族からのお手紙や写真等を飾って頂くこともできる。テレビがお好きな方にはテレビを持参いただき、ゆっくりとテレビを観て頂けるようにしている。	箆笥、衣装ケース、テレビ、仏壇、時計、三面鏡、小机、衣類、本、化粧品などの日用品を持ち込み、姫だるま、造花、ぬいぐるみ、家族の写真、芸能人の写真、色紙などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にプレートをつける、トイレに目印をつける等、視覚的に分かりやすいように工夫している。物の定位置を決めることで、利用者が自分で物品の準備や片づけをおこえるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 神原苑東新川グループホーム

作成日：平成 30 年 8 月 29 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	定期的な訓練の実施	・毎月1回の事業所内職員研修の際に、初期対応・応急手当について看護職員による10分程度のミニ研修を継続して行う。実践力を身につけれるように何度も行う。 ・消防に依頼し研修を行う。 ・地域の防災訓練に参加	12ヶ月
2	36	災害時地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域との協力体制の構築	・地域資源について調べる。 ・地域の集まり等に参加、宅老所の利用者を含めた地域の方々と関係を強くするようにしていく。 ・地域の防災訓練等に参加し、地域の防災対策について知る。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。